



平成22年3月期 決算短信

平成22年5月14日
上場取引所 東

上場会社名 松井建設株式会社

コード番号 1810 URL <http://www.matsui-ken.co.jp/>

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 松井 隆弘

問合せ先責任者 (役職名) 管理本部経理部長 (氏名) 大井川 清

定時株主総会開催予定日 平成22年6月29日

配当支払開始予定日

TEL 03-3553-1161

有価証券報告書提出予定日 平成22年6月30日

平成22年6月30日

(百万円未満切捨て)

1. 22年3月期の連結業績(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期	78,145	5.7	865	50.1	1,075	27.3	△619	—
21年3月期	73,901	△13.7	576	△19.3	844	△11.7	282	△39.2

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	自己資本当期純利 益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
22年3月期	△20.30	—	△3.1	1.7	1.1
21年3月期	9.26	—	1.3	1.3	0.8

(参考) 持分法投資損益 22年3月期 ー百万円 21年3月期 ー百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期	55,793	19,844	35.6	649.91
21年3月期	68,318	20,580	30.1	673.94

(参考) 自己資本 22年3月期 19,844百万円 21年3月期 20,580百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
22年3月期	4,204	△743	△4,791	6,932
21年3月期	△4,192	574	2,795	8,263

2. 配当の状況

	1株当たり配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
21年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00	305	108.0	1.5
22年3月期	—	4.00	—	4.00	8.00	244	—	1.2
23年3月期 (予想)	—	4.00	—	4.00	8.00		54.3	

3. 23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 連結累計期間	38,000	24.4	500	5.8	600	△1.9	300	—	9.82
通期	72,000	△7.9	700	△19.1	900	△16.3	450	—	14.74

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
 新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
 ② ①以外の変更 無

(注)詳細は、17ページ「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」、及び18ページ「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期 30,580,000株 21年3月期 30,580,000株
 ② 期末自己株式数 22年3月期 45,535株 21年3月期 43,035株

(注)1株当たり当期純利益(連結)の算定の基礎となる株式数については、27ページ「1株当たり情報」をご覧ください。

(参考)個別業績の概要

1. 22年3月期の個別業績(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期	73,255	△2.2	630	△27.8	831	△27.6	△702	—
21年3月期	74,929	△10.4	873	73.2	1,148	50.2	441	9.6

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期	△22.99	—
21年3月期	14.47	—

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円 銭		
22年3月期	54,777		19,628		35.8	642.82		
21年3月期	67,319		20,449		30.4	669.66		

(参考) 自己資本 22年3月期 19,628百万円 21年3月期 20,449百万円

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、3ページ「次期業績の見通し」をご覧ください。

1. 経営成績

(1) 経営成績に関する分析

①当連結会計年度の経営成績

当連結会計年度におけるわが国経済は、個人消費の持ち直しや輸出の緩やかな増加により、景気は回復傾向にあるものの、依然として失業率が高水準にあるなど厳しい状況で推移しました。

建設業界におきましては、公共事業の削減に加え、民間設備投資も大幅に減少し、建設需要の縮小の中で熾烈な受注価格競争が続き、極めて厳しい経営環境となりました。

このような経済情勢の中で、当連結会計年度の業績は、以下のとおりとなりました。

連結売上高につきましては、前年同期比5.7%増の781億45百万円となりました。

利益につきましては、営業利益は前年同期比50.1%増の8億65百万円、経常利益は同27.3%増の10億75百万円となりましたが、取引先不動産デベロッパーの経営破綻により特別損失として貸倒引当金繰入額を13億55百万円を計上したことにより、当期純損失は6億19百万円（前年同期は当期純利益2億82百万円）となりました。

事業のセグメントごとの業績は以下のとおりです。

(建設事業)

完成工事高につきましては、前年同期比0.5%減の718億46百万円となりました。利益につきましては、完成工事高の減少と完成工事総利益率の低下により営業利益は前年同期比9.8%減の8億99百万円となりました。

なお、当社単体の建設受注高につきましては、前年同期比14.6%減の601億14百万円となり、その内訳は建築工事が同15.1%減の587億19百万円、土木工事が同13.3%増の13億95百万円となりました。

(不動産事業等)

建設事業以外の事業として、不動産賃貸及び分譲事業等を営んでおり、不動産事業等売上高は連結子会社における開発型不動産売上の増加により前年同期比268.2%増の62億98百万円となりましたが、利益につきましては不動産事業等総利益率の低下等により、営業利益は前年同期比41.7%減の1億98百万円となりました。

②次期業績の見通し

次期の見通しにつきましては、海外景気の下振れ懸念やデフレの影響等、景気悪化の懸念材料はあるものの、企業収益の改善により景気の持ち直し傾向が続くものと思われま

建設業界におきましては、設備過剰感が依然として高く、公共投資・民間設備投資ともに低水準で推移し、激化する受注環境の下、厳しい経営環境が続くものと思われま

このような状況を踏まえ、平成23年3月期通期の連結業績予想は、売上高720億円、営業利益7億円、経常利益9億円、当期純利益4億50百万円を見込んでおります。

(2) 財政状態に関する分析

①資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ18.3%減の557億93百万円となりました。主な減少要因は受取手形・完成工事未収入金等の減少28億43百万円、未成工事支出金の減少54億97百万円、仕掛販売用不動産の減少22億28百万円等であります。

負債合計は、支払手形・工事未払金等が47億62百万円減少、短期借入金が41億円減少、未成工事受入金が34億54百万円減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ24.7%減の359億48百万円となりました。

純資産合計は、配当金の支払及び当期純損失の計上により利益剰余金が8億94百万円減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ3.6%減の198億44百万円となりました。

これにより当連結会計年度末の自己資本比率は5.5ポイント向上し35.6%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の主な増減状況につきましては、営業活動による資金の増加が42億4百万円（前連結会計年度は41億92百万円の減少）、投資活動による資金の減少が7億43百万円（前連結会計年度は5億74百万円の増加）、財務活動による資金の減少が47億91百万円（前連結会計年度は27億95百万円の増加）となり、これにより資金は前連結会計年度末に比べ13億30百万円減少（前連結会計年度は8億23百万円の減少）し、69億32百万円となりました。

各活動における主な増減の内訳につきましては、次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による資金は、税金等調整前当期純損失3億70百万円を計上、仕入債務の減少・未成工事受入金の減少により81億70百万円減少する一方、売上債権の減少、たな卸資産及び未成工事支出金の減少により101億72百万円増加し、営業活動による資金は42億4百万円の増加となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金は、有形固定資産の取得による支出等により7億43百万円の減少となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金は、短期借入金の減少等により47億91百万円の減少となりました。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	平成18年 3月期	平成19年 3月期	平成20年 3月期	平成21年 3月期	平成22年 3月期
自己資本比率 (%)	33.1	33.7	32.7	30.1	35.6
時価ベースの自己資本比率 (%)	25.1	25.3	15.2	16.1	19.5
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (%)	63.0	—	—	—	126.3
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	97.4	—	—	—	43.0

(注) 自己資本比率

: 自己資本/総資産

時価ベースの自己資本比率

: 株式時価総額/総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率

: 有利子負債/キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ

: キャッシュ・フロー/利払い

※各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により算出しております。

※「株式時価総額」は、期末株価終値×期末発行済株式数（自己株式控除後）により算出しております。

※「キャッシュ・フロー」は連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。「有利子負債」は連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。また「利払い」については、連結キャッシュ・フロー計算書の「利息の支払額」を使用しております。

※平成19年3月期、平成20年3月期及び平成21年3月期におきましては、営業キャッシュ・フローがマイナスのため、「キャッシュ・フロー対有利子負債比率」及び、「インタレスト・カバレッジ・レシオ」については記載しておりません。

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は、株主の皆様に対する安定的な利益の還元を基本方針としております。また、企業体質の強化や将来の事業展開のためには、利益の内部留保も重要であると認識しており、安定的な配当を基本に、その時々々の経営環境や、業績・配当性向等から最適な利益配分を決定しております。

上記の方針に基づき、当期における配当金は、1株につき期末配当4円、年間で8円といたしました。

次期の配当は、1株につき中間配当金4円、期末配当金4円の年間配当金8円を継続する予定であります。

2. 企業集団の状況

最近の有価証券報告書（平成21年6月29日提出）における「事業系統図（事業の内容）」及び「関係会社の状況」から重要な変更がないため開示を省略します。

3. 経営方針

(1) 会社の経営の基本方針、(2) 目標とする経営指標、(3) 中長期的な会社の経営戦略

平成20年3月期決算短信（平成20年5月15日開示）により開示を行った内容から重要な変更がないため開示を省略します。

当該決算短信は、次のURLからご覧いただくことができます。

(当社ホームページ)

<http://www.matsui-ken.co.jp/>

(東京証券取引所ホームページ（上場会社情報検索ページ）)

<http://www.tse.or.jp/listing/compsearch/index.html>

(4) 会社の対処すべき課題

建設需要が将来的に縮小傾向にあるなかにおいて、当社といたしましては、持続的な企業価値の向上を目指し、当社の得意分野である社寺建築に関し、「社寺の松井建設」としてのブランド力の強化、及び安定収入源としての不動産賃貸事業の強化を図り、グループ企業が一体となり経営基盤をより一層強固にし、業績の向上に努めるとともに、受注拡大やコンプライアンス体制のさらなる強化に努め、より信頼される企業グループを目指していく所存であります。

